

リーズ・トリニティ大学 (イギリス)

11月はジャーナリズムのコースで、大きなイベントがあった。Journalism and Media Weekというイベントで、ジャーナリズムやメディアの業界で活躍する著名人や大学の卒業生を招いて、トークやセッションを通して、将来の役に立つ情報やアドバイスをもらい、刺激を受けることを目的に4日間にわたって開催された。このイベントに参加しながら課題として、このイベントに関するニュース記事を作ったり、リアルタイムでツイートをするなどして実際にジャーナリストとして参加した。ゲストのお話を通して、実際にジャーナリストとしてのポジションを獲得するためには、「拒否されることに慣れ、恐れずに応募・挑戦し続けること」（どんなに著名な人でも最初は選考にたくさん落ちたり、受からずにいたけどそれを気にせず挑戦し続けたから今の仕事があること）、「過程を信じて今できることから少しずつキャリアを積み始めること」、「大学での学びの外で何かにチャレンジし、それを学びに結びつけるとともに、自分の将来やりたいことにも結びつけるように心がけるようにすること」（選考ではたくさんの応募者がいる中でユニークさや自分がそのポジションについていたら何をもちたることができるかが際立っている人が受かるため）など、今後のキャリアに役立つことを実際の業界の人々から学ぶことができ、さらに刺激を受け、これから就活に臨む自分自身にとって非常に刺激となるイベントとなった。

ナバラ大学 (スペイン)

スペインに来て3ヶ月が経ちました。日に日に寒暖差もなくなり、平均10度前後、暖かい日で15度行くかいかないかの日々です。27日には雪が降りました。約1.5センチ積もる本格的な降雪でした。念のためスノーブーツを準備しておくことをお勧めします。また、ヨーロッパではCOVID VACCINATION PASSPORTのQRコードをスキャンして建物内に入れる制度があり、そのQRコードはヘルスセンター（Centro de Salud）で申請できます。Centro de Saludは自分の住所ごとに異なり、パスポートまたはTIEとワクチン証明書を持って行けば申請手続きをしてもらえます。

オレブロ大学 (スウェーデン)

スウェーデンにはFIKAという文化があり、休みの日に友人と度々カフェへ行き、コーヒーを飲みながら長時間話したりします。だんだん仲良くなっていく中でお互いの国の政治、経済の話になることもあるのですが、その際に英語で説明するのが難しいからではなく、根本的に自分が思っていたよりも日本についてきちんと知らないことに気がつきました。もともといろいろな国の文化や歴史に興味がある方ですが、それ以前に自分の国のことをきちんと説明できないのは恥ずかしいと思ったので、次聞かれたときにきちんと正しい情報を伝えられるようにします。

ド・モントフォート大学 (イギリス)

通常、他の学業分野の授業において、人前に出てプレゼンテーションをするとなると、数日前から内容を固め、何を話すか準備をする時間があると思います。私が取っているグラフィックデザインの授業では、授業中に手本になる作品ができると、先生から皆の前で作品を見せてプレゼンするよう突然言われることがあります。最近は英語を話すことに慣れ始めていたのもあって、突然のオファーにも動揺せず前に出ていたのですが、みんなの視線が自分に集まった瞬間、うまく言葉が回らなくなってしまいました。自分の拙い説明のせいでせっかくのチャンスを台無しにした気がして、非常に情けなかったのと同時に、頑張っついでいてくる外国人だと他のクラスメイトに思われたくないと感じました。

その時、自分は日本からきた外国人として特別視されるのではなく、周囲の人に対等に扱われたいのだと気づきました。少しではありますが、外国人として社会で生きる人の気持ちがわかったような気がします。しかし、この街で出会う人は自分の文化的バックグラウンドに誇りを持っていて、少し聞くととても嬉しそうに話してくれます。個性を尊重し、自分の意見を持つことをよしとするこちらの価値観と、無意識のうちに構築された集団に馴染みたいという私の日本的価値観がぶつかっているようでした。前者に賛同し、そうありたいと思ってこの国に来ましたし、作品に日本人としてのアイデンティティの要素を求められた時に、自分は日本人である以前に一人の人間であって、そこから生まれる個性があるのだから、そちらに目を向けて欲しいとも思いました。自分の中でどんな感情の変化があって、それが何に起因するものなのか自分自身まだ折り合いがつけられていないのですが、一つ貴重な海外での体験だと感じたのでここで報告させていただきます。

仁川大学校 (韓国)

今月は中間試験と期末試験の間の期間なので試験は特にありませんでしたが、授業の時は積極的に発言したり、課された課題を丁寧に取り組むようにしたりすることを心がけました。12月14日に行われる期末試験では筆記試験に加えてスピーキングの試験もあります。スピーキング試験では一人で行ってもペアを組んでも良いとのことだったので、同じ寄宿舍に住んでいる中国人の友達にいっしょにやろうと私から声をかけてみました。試験は12月14日ですが、その試験で使用する原稿（2人で6分の対話をテーマ別に3つ）を11月25日までに準備しなければならなかったもので、中国人の友達と合計4日間会議をしながら原稿を作成しました。普段の授業ではzoomの画面上でしか会ったことがなかった友達なので、寄宿舍2階のスタディスペースに集合したり、第3寄宿舍のカフェで会議したりして課題に取り組むのが新鮮でした。とても親しみやすい友達と原稿を作成できたので、彼女に声をかけて本当によかったと思います。また、お互いに韓国語が母国語ではない相手と話さなければならないので、とても良い機会だったと思います。自分たちの知っている語彙や文法を使ってどれだけ表現ができるかを試すことができるので、会話が非常に楽しかったです。試験当日まで一生懸命練習しようと思いません。